

第1回高等研究院レクチャーを開催

第1回高等研究院レクチャーが、3月12日(木)、医学部附属病院中央診療棟3階講堂において、本学教職員・学生・一般市民など約140名の参加を得て開催されました。本レクチャーは、学内教員、大学院学生等を対象とする高等研究院の学術講義であり、今回初めて行われたものです。

当日は、近藤院長のあいさつの後、神経再生医療の最新

研究成果について、2名の講師による講演が行われました。従来、神経はいったん損傷を受けると回復しないと考えられていました。しかし、最近の研究から神経細胞は再生できることがわかり、さまざまな研究が進んでいます。まず、門松健治医学系研究科教授が、「神経軸索再生とプロテオグリカン」と題して、脊髄損傷の治療法の現状およびプロテオグリカンによる軸索再生の阻害機構等について解説しました。続いて、岡野栄之慶應義塾大学医学部教授が、「iPS細胞を用いた神経再生戦略」と題し、脊髄損傷の根本的な治療法として期待されているiPS細胞による治療法の現状について分かりやすく講演しました。同教授は、iPS細胞を用いて、脊髄損傷で脚がまひしたマウスを歩けるまで回復させることに成功し、iPS細胞の効果を証明しました。この実験結果にも触れ、脊髄再生への応用について解説しました。それぞれの講演後には、活発な質疑応答が行われ、最後に、高橋雅英医学系研究科教授が閉会の辞を述べて終了しました。参加者から、「理解しやすかった」「これからも積極的に参加したい」との感想が多数寄せられており、大変有意義なレクチャーとなりました。



レクチャー会場の様子